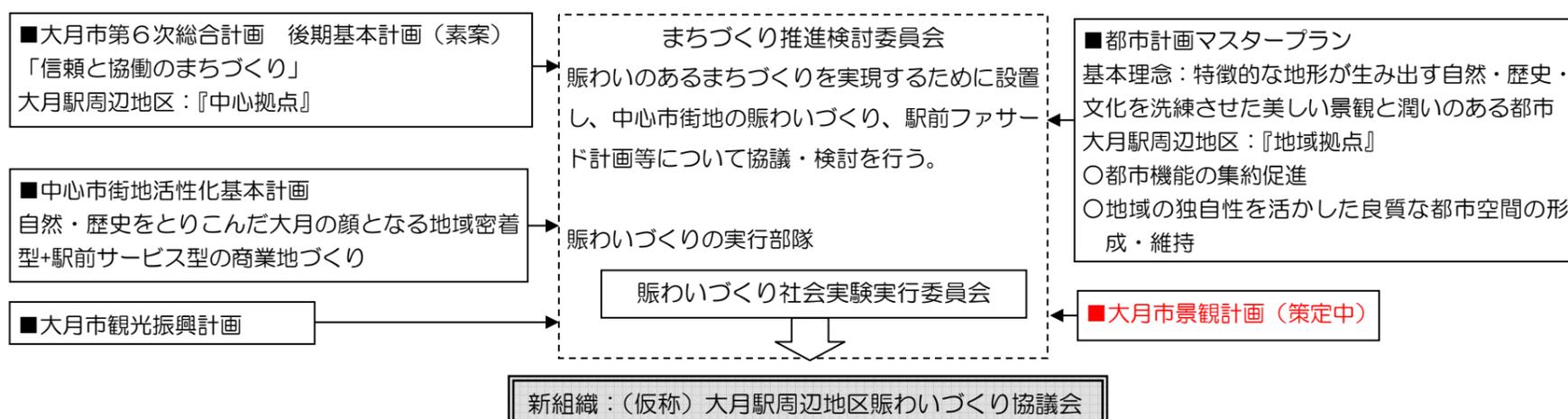


賑わいづくり社会実験実行委員会から移行する組織作りについて(案)

1. 基本的な考え方

まちづくり推進検討委員会解散に伴い提言された、「賑わいづくり社会実験実行委員会」から移行する組織(以下、新組織という。)を設立し、大月駅周辺地区の賑わいづくりによる活性化を推進する。

2. 組織の位置づけ



3. 組織の構成イメージ

新組織の設立は任意団体でスタートとし、その構成は「賑わいづくり社会実験実行委員会」を主体として組成する。

組織構成は社会実験実施事業をベースとする。

設立後、新組織への新規加入希望者等についてはこの組織の自主により決定するものとする。

●新組織の体制(案)

	設立当初の体制イメージ(案)	組織発展時の体制イメージ(案)
体制		
メリット	・関係性が少なく、機動性が高い。	・部門間における連携により、総合的かつ計画的な事業の実施が可能。 ・法人化等への移行の際の体制構築が容易。
デメリット	・事業間の連携による実施が困難。 ・事業内容の重複が生じる可能性が高い。	・事業メニュー、体制の再構築が必要。
今後の検討課題	・事業間の連携が図れるような体制の構築が必要。 (右図：事業メニュー別部門による構成の検討等)	—

4. 市の関わり方について

市は下記の事項について新組織の事業活動等の支援を行うこととする。

- ・許認可に関わる関係機関との調整・事務手続き
- ・補助金申請の事務手続き
- ・イベント等開催の際のPR支援(広報・HPへの掲載)
- ・庁内関係機関との調整

5. 今後の検討課題

今後、より大きな事業を実施、継続していくためには、下記事項の検討が必要だと考える。

また、連絡調整会議等(組織発展時にはまちづくり研究会等)で凍結した事業等の今後の展開を注視し事業活動へ反映する。

- ・基本的な組織形態を変更しないが、より大きな事業投資を実施(空き店舗の買取・活用事業や収益性の高い自主事業、再開発事業等の実施)すべく、株式会社(まちづくり会社)を組成
- ・各主体及び大月市の出資に加え、政府系投資や民間出資を導入